

スポーツ振興について(1)

1 スポーツを通じた国内外との交流促進

(1) 東京オリンピック・パラリンピックスポーツ交流創出事業

東京オリンピック・パラリンピックに向け、ホストタウン相手国との交流や聖火リレーを通じて地域の盛り上がりを創出する。

①ホストタウンを活用した交流推進

ホストタウン相手国と地元小中学生等との交流事業を深めるとともに事前合宿の誘致に引き続き取り組む。

登録日	登録団体	相手国	競技	今年度の主な取組	事前合宿
H28. 6. 14	滋賀県・大津市	デンマーク	ボート	・相手国中学生と地元小中学生との交流事業(4月) ・ボート競技大会の選手招待による交流事業を予定	—
H28. 6. 14	滋賀県・米原市	ニュージーランド	ホッケー	・ニュージーランド代表チームと地元との交流事業を予定	—
H28. 12. 9	滋賀県・守山市	トルコ	ゴールボール 視覚障がい者柔道	・市の文化事業(ルノールアートキッズフェスティバル)で、トルコとの文化交流プログラムを実施(5月) ・視覚障がい者柔道選手との交流事業を予定	○
H30. 4. 27	滋賀県・甲賀市	シンガポール	パラスポーツ	・障害者スポーツ選手招待と地元との交流事業を予定	○
H30. 8. 31	滋賀県・彦根市	スペイン	ハンドボール	・スペイン代表チームと地元との交流事業を予定	○
H28. 6. 14	滋賀県	ニュージーランド	ボート	・県スポーツ協会主導で実行委員会を立ち上げ、ニュージーランドボートチームの事前合宿を受け入れ準備	○

②東京オリンピック聖火リレー開催準備

聖火リレー概要の公表や聖火ランナーの公募・選考を通じて、東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成と地域の魅力発信や盛り上がりを演出する。

(2) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西

ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催に向け、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会と 13 府県政令市実行委員会が中心となって大会準備を進める。

○大会概要

大会全体で公式競技として 35 競技 59 種目を開催。

本県では公式競技 6 競技種目開催予定、日程等は次表のとおり。

2021 年（令和 3 年）

競技種目	開催市	予定募集枠 (想定参加者数)	5/14 金	5/15 土	5/16 日	5/17 月	5/18 火	5/19 水	5/20 木	5/21 金	5/22 土	5/23 日	5/24 月	5/25 火	5/26 水	5/27 木	5/28 金	5/29 土	5/30 日
野球 (軟式野球)	東近江市 守山市	66チーム (1,100人)	開 会 式	○	○	○	○	○	○	○									閉 会 式
ホッケー	米原市 長浜市	50チーム (600人)		△	○	○	○	○	○	予備日									
ソフトボール	草津市 守山市 東近江市	160チーム (2,620人)									○	○	○	予備日	予備日	○	○	○	
ボート	大津市	861クルー (2,000人)								△	△	○	○	○	○	○	○	予備日	
陸上競技 (10kmロードレース)	彦根市	900人										○							
カヌー (ドラゴンボート)	大津市	10人漕ぎ 80チーム 20人漕ぎ 65チーム (2,000人)															△	○	○
想定参加者数計		9,220人																	

○…競技日、△…練習日・監督者会議等

○今後の取組

スポーツツーリズムの観点から、国内外の参加者の満足を得られるような質の高い観光プログラムを提供することとしており、観光部局等との連携のもとで、競技運営準備と並行して参加者に向けた本県ならではの特別な観光プラン等を検討する。

また、開催市と一体となって、県内外における様々なイベント等において大会PRを展開し、認知度、開催機運の向上と参加者増を目指す。

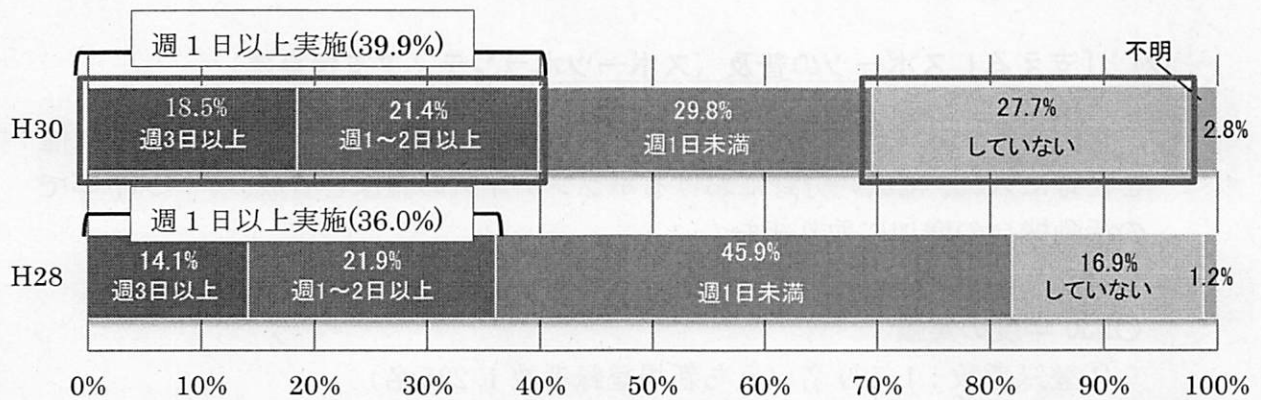
2 スポーツを通じた地域の活性化

(1) 県民のスポーツ実施率の向上に向けた取組

運動・スポーツに無関心な層の運動・スポーツ習慣化につながる事業を実施し、スポーツを通じた県民の健康増進を目指す。

○運動・スポーツ活動の状況

平成30年度調査によると、本県の成人の週1日以上の実施率は39.9%であり、平成28年度調査に比べ3.9%上昇しているものの国の実施率55.1%を下回っている。



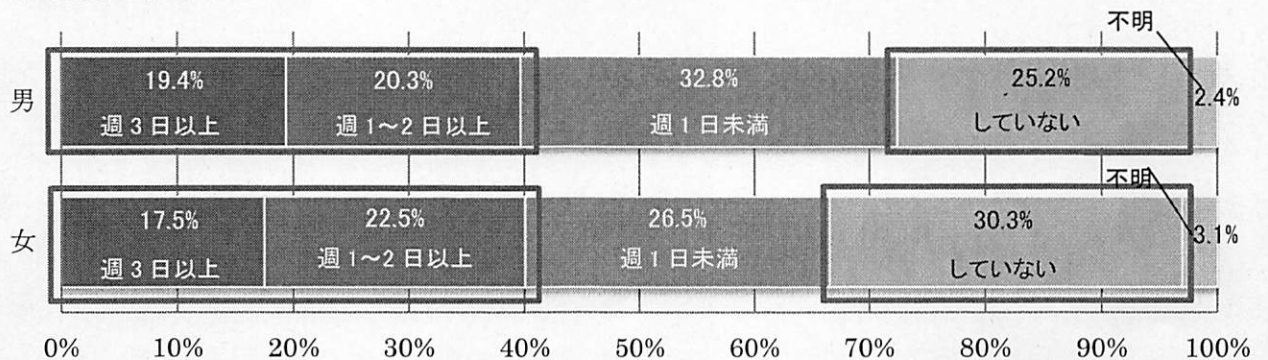
※全国との比較 (週1日以上の実施率)

	滋賀県	全国
H30	39.9%	55.1%
H28	36.0%	42.5%

※週1日以上運動・スポーツを行っている人の年代別の状況

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	全体
H30	35.6%	29.7%	24.7%	37.3%	52.3%	65.6%	39.9%
H28	23.7%	25.2%	28.0%	34.6%	45.0%	43.0%	36.0%

※性別の状況



(出展) 国：スポーツの実施状況等に関する世論調査 (H28,30)

県：県民のスポーツライフにかかわるスポーツ実施状況調査 (H28)、滋賀県スポーツ実施状況調査 (H30)

○今後の取組

運動・スポーツに週1日以上取り組めていない層（「働き世代」「女性」）を対象に、運動機会の提供や習慣化のきっかけとなる取組を実施する。

①運動・スポーツ習慣化促進事業

スポーツクラブ、企業、大学等が持つスポーツ資源や運営ノウハウを有効活用し、楽しく気軽に運動・スポーツに取り組める企画提案事業を実施する。

②子どもの運動習慣アップ支援事業

子育て世代の運動参加促進等を図るため、幼稚園等に通う園児やその保護者に対し、運動遊びプログラムの普及を進める。

(2) 「支える」スポーツの普及（スポーツボランティア支援事業）

ワールドマスターズゲームズ2021 関西等の大規模スポーツイベントの開催を視野に入れ、幅広い分野におけるボランティアの確保と育成、イベント等での活動機会の増加に取り組む。

○H30年度の実績

①登録者数：1,789名（うち新規登録者数1,235名）

②研修会：スポーツボランティアの活動に役立つテーマで10回開催

③活動実績：県内各地で開催されるスポーツイベント等にのべ571名参加

○今後の取組

新規登録者数のさらなる増加を目指す。(2020年度に登録者2,000名を目標) 加えて多様な研修や活動の機会の案内に取り組むとともに、企業・大学等の協力も得ながら、登録者を実際の活動にしっかりとつなげるための工夫を行う。

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の成功はもとより、ボランティア活動を地域に根づかせ、将来的には県内におけるボランティア文化の醸成につなげる。

(3) プロスポーツ等を活用した県民スポーツの推進

県内プロスポーツチームの持つ集客力や発信力を活用し、県内試合会場で国スポ・障スポ等のスポーツ大会の盛り上げや県民の運動習慣向上につながるPR等を行う。

○対象プロスポーツチーム等

滋賀レイクスターズ (バスケットボール)

オセアン滋賀ユナイテッドベースボールクラブ (野球)

MI Oびわこ滋賀 (サッカー)

東レアローズ (バレーボール)

○事業内容

①本県で開催されるスポーツ大会PR

ベンチ前やバックスタンド等に国スポ・障スポやワールドマスターズゲームズ 2021 関西をPRするための横断幕を掲示するほか、チームのショップバッグに大会周知の広告を掲載し、大会開催機運の醸成を図る。

②運動習慣向上に向けたPR

ホームゲームでのブース出展や冠ゲームの開催を通じてスポーツの魅力を発信するPRを行い、県民の運動・スポーツ習慣の向上につなげる。

3 県立スポーツ施設等の整備状況について

県立スポーツ施設については、平成26年度に実施した「県立社会体育施設の最適な管理についての調査研究」の結果を踏まえつつ、令和6年開催の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会での活用はもとより、本県のスポーツ振興や県民の健康づくりに資するよう、各施設の整備を進めていくこととする。

(1) 新県立体育館

両大会の開催を契機として、スポーツ・健康づくりの拠点整備を目指し、老朽化が進み、施設が狭隘となっている現体育館（ウカルちゃんアリーナ）を、びわこ文化公園都市内に移設整備する。

整備・運営にあたっては、県民サービスの向上や財政支出の軽減・平準化など高い効果が期待できるPFI方式により事業を実施することとしており、本年度6月に予定している落札者の決定に向け手続を進める。また、用地造成に関しては、県が工事を実施することとしており、本年度の工事着手に向け取組を進める。

【整備スケジュール】

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (国大会)	2024 (国スポ)
PFI事業		PFI事業者 公募・選定		PFI事業 (設計)	PFI事業 (建設)	★	PFI事業 (維持管理・建設)	
	▲ 実施方針 公表	▲ 特定 事業 選定	▲ 入札 公告 受付	▲ 事業 契約		▲ 供用開始 (2022.12.1)		
造成工事 (県)	基本 設計	実施 設計	造成 工事					

【事業費】

約90億円

【施設概要】

区分	概要
メインアリーナ	面積 2,760 m ² (69m×40m) 以上、高さ 14m 以上 総観客席数 5,000 席以上 (1階観客席 2,500 席以上 : 電動式の壁収納型可動席 1,600 席以上+椅子による仮設席) (2階観客席 2,500 席以上)
サブアリーナ	面積 1,161 m ² (27m×43m) 以上、高さ 12m 以上 観客席 200 席以上
スポーツ活動諸室	多目的室、トレーニング室、スポーツ・体力測定室
その他諸室	事務室 (施設管理室)、応接室 (来賓室)、医務室、放送・音響・調光室、キッズルーム・授乳室、競技団体交流室、飲食提供施設等
共用部を含む上記面積の合計 : 13,500 m ² 程度	
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場 : 常設駐車場・臨時駐車場合わせて 900 台以上 ・駐輪場 : 200 台以上
多目的広場	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に運動やトレーニングができ、多様なイベントへの対応、防災面でも活用できる多目的広場。 ・イベント開催時は臨時駐車場としても利用。

(2) (仮称) 草津市立プール

(仮称) 彦根総合運動公園の整備に伴い廃止した県立スイミングセンターの代替機能を担うプールの整備については、施設運営や財政負担の観点から、市町との連携により施設を整備するという方針のもと、新たに市立プールを整備する草津市に対して、財政支援を行う。

現在は、草津市において、要求水準書の作成に取り組まれるなど、施設整備に向けた取組を進められている。引き続き、本県の水泳競技の活動拠点となる施設として、また、令和5年度国スポ等リハーサル大会を目指して、草津市と連携・協力しながら事業を進める。

【整備スケジュール】

項目\年度	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
基本計画策定	→						
造成・道路関係：設計		→					
PFI事業者選定に向けた 手続き等			→				
造成・道路関係：工事 建築関係：設計・工事				→			

【県負担見込額】

約 65 億円

※草津市の基本計画における概算整備費を踏まえた所要見込額 (PFI 方式による事業実施を想定) 整備費 (95 億円) × 2/3 (飛び込み 10/10)

【施設概要】

区分	概要
プール施設	50m 屋内温水プール、飛込兼用 25m 屋内温水プール 観客席：2,500 席 (仮設席含む)、選手控室、器具庫等
付属施設	更衣室、トイレ、トレーニングルーム等
管理・共用施設	事務室、休憩室、応接室、中央監視室等

(3) 琵琶湖漕艇場

琵琶湖漕艇場は、本県のボート競技およびカヌー競技活動の中心施設として重要な役割を果たしてきた一方、施設開設後48年が経過し、管理棟や艇庫をはじめとする施設の老朽化、コース利用における安全対策などの様々な課題が顕在化している。

このため、利用者の利便性・安全性の向上や競技会場としての機能強化を図るべく、管理棟・艇庫の改築およびコース改修を実施することとし、本年度は、これらに係る工事に着工する。

【整備スケジュール】

項目\年度	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
基本設計・実施設計	➡		
管理棟・艇庫改築工事		➡	
コース改修工事		➡	

【事業費】

約10億円

【整備概要】

区分	概要
管理棟・艇庫改築	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨造2階建て 延床面積1,260㎡程度 ・トレーニングルームの新設 ・会議室兼宿泊室の設置 ・艇庫の拡張(403.2㎡ → 600㎡程度) ・公園利用者が観覧できるスペースの新設 ・バリアフリー化
コース	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性向上のための北上移設(50m) ・波の影響を低減するための消波装置の設置

(4) 伊吹運動場

オリンピック事前合宿、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西および国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会において、ホッケー競技会場として活用することから、老朽化が進んでいる人工芝の張替や散水・照明設備の改修を実施する。

【事業費】

約 4 億円

【整備スケジュール】

項目\年度	2018 (H30)	2019 (R1)
実施設計	➡	
照明設備改修工事		➡
人工芝張替・散水設備改修工事		➡

【整備概要】

人工芝張替 (6,973 m²)、散水設備改修 (6 基)、照明設備改修 (5 基)

(5) 長浜バイオ大学ドーム

ワールドマスターズゲームズ 2021 関西において、ホッケー競技会場として活用することから、老朽化が進んでいる人工芝の張替を実施する。

【事業費】

約 2 億円

【整備スケジュール】

項目\年度	2018 (H30)	2019 (R1)
実施設計	➡	
人工芝張替工事		➡

【整備概要】

人工芝張替 (8,880 m²)

(6) (仮称) 彦根総合運動公園

(仮称) 彦根総合運動公園は、両大会の主会場はもとより、将来のスポーツ振興やスポーツを通じた健康増進、地域の活性化のための施設として整備を進めており、今後も 令和 4 年度末の完成を目指し着実に整備に取り組む。

【整備スケジュール】

項目 \ 年度	2017年度 (7年前)	2018年度 (6年前)	2019年度 (5年前)	2020年度 (4年前)	2021年度 (3年前)	2022年度 (2年前)	2023年度 (1年前)	2024年度 (開催年)			
公園敷地の拡張	→						供用開始 ↓ リハーサル大会開催	第 2 4 回 国民スポーツ大会開催			
既存施設解体 (スポーツ会館、プール、庭球場) (土木施設)	← 建築施設 →		← 土木施設 →								
公園等整備 (基盤工事、地盤対策工事)				←							
(第3種陸上競技場)						←					
(緑の広場、エントランス広場、 交流広場、第1種外構など)						←					
連絡橋				←							
建築施設設計画設計 (第1種陸上競技場)	← 基本設計 →		← 実施設計 →								
建築施設工事 (第1種陸上競技場)				←							

【事業費】

約 200 億円

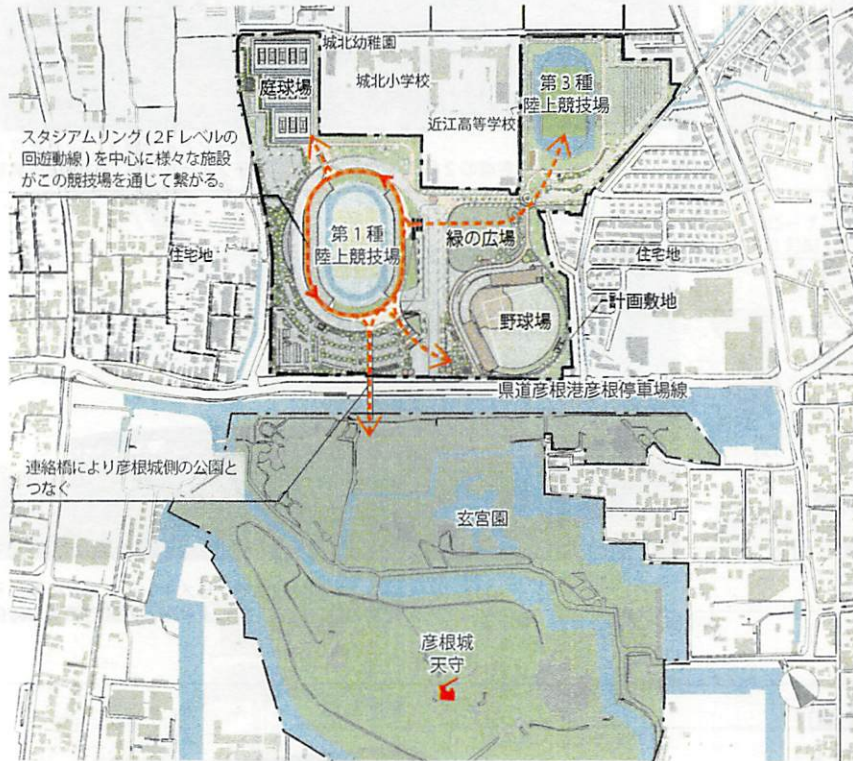
【主な施設概要】

区分	概要
第 1 種陸上競技場	収容人員:15,000 人以上 構造:鉄筋コンクリート造 5 階建て トラック:400m×9 レーン フィールド:107m×71m
第 3 種陸上競技場	管理棟 トラック:400m×8 レーン
庭球場	12 面、夜間照明灯設置
野球場	(存置)
エントランス広場・緑の広場	休憩所、便所、植栽など
駐車場	約 1,100 台
駐輪場	約 380 台

滋賀の歴史文化を継承し、 親しみをもてる交流の架け橋となる競技場

2024年に開催する国民スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会の主会場(開・閉会式と陸上競技の会場)として、滋賀県立彦根総合運動場に第1種陸上競技場を備えた公園として再整備します。

第1種陸上競技場は、彦根城の世界遺産登録に向けた取組や防災機能の強化等に配慮した建物形状、競技者の使い易さや構造安全性、環境負荷の削減等を総合的に考慮した設計としています。



第1種陸上競技場全体イメージ

第1種陸上競技場の計画概要

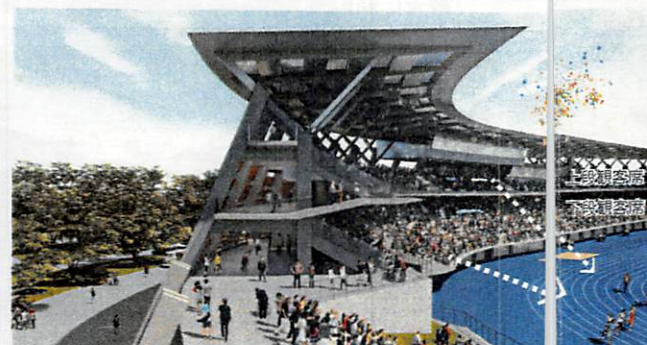
敷地	トラック・フィールド
所在地 : 滋賀県彦根市松原町	トラック : 400m×9 レーン
面積 : 21.8ha	レーンの幅 1.22m
建物	舗装 : 全天候舗装 (ウレタン舗装スプレーエポス) ティフトン芝 (107m×71m)
建築面積 : 15,637 m ²	■施設概要
延べ床面積 : 25,253 m ²	飛躍競技施設 : 走幅跳 6カ所
構造 : 鉄筋コンクリート造	三段跳 6カ所
一部鉄骨造	棒高跳 6カ所
規模 : 5階建て	走高跳 5カ所
最高高さ : 24m	投てき競技施設 : 砲丸投 4カ所
収容人員 : 15,000人	やり投げ 2カ所
メインスタンド : 7,000席	円盤投・ハンマー投 2カ所
(北サイドに大型映像装置を設置)	障害物競争設備 : 水濺をレーンの外側に設備

第1種陸上競技場の5つのコンセプト

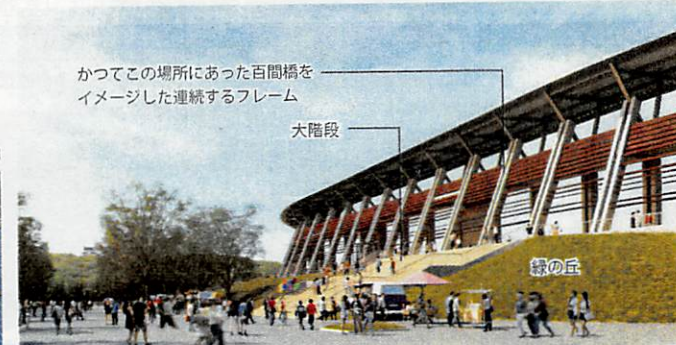
- 1. コンパクトな競技場**
 - ①メインスタンドの観客席を2層構成にし、フィールドとの距離を短くした臨場感の高い観戦が可能
 - ②競技場周辺に空間を生み出し、住宅地からの距離を離すことや樹木を植栽し圧迫感を低減
 - ③建物の幅や屋根の架設面積を縮小したことによるコスト削減
- 2. 歴史景観に配慮した競技場**
 - ①伝統的な真壁造りや下見板張りのデザイン
 - ②かつての内湖にあった百間橋をモチーフに柱と梁を連続で檜形状に構成
 - ③城下町の景観と調和するように彩度を抑えた色調を採用
- 3. 周囲を自由に回遊できる**
 - ①2階レベルに段差なく回遊できる歩道空間(スタジアムリング)を設置
 - ②回遊できる歩道空間に三つの階段と一つのスロープを設け公園内各施設への動線を確保
 - ③歩道空間と連絡橋を接続し市営金亀公園へのアクセスを向上
- 4. 環境負荷の削減を図る**
 - ①遮光・防音ルーバーを設置し住環境負荷(光もれ、音もれ)を低減
 - ②競技場照明をはじめとする全ての照明にLED器具を採用
 - ③県産材の活用に努め輸送によるCO2の発生を縮小
 - ④屋根に降った雨水はフィールド芝等への散水に利用
- 5. 安全で安心な競技場**
 - ①耐震性の高い構造架構
 - ②災害時の緊急輸送機能や避難施設機能を確保
 - ③発災時には貯水した雨水をトイレの洗浄水等に活用
 - ④日常動線が避難動線になる、安全でわかりやすい避難計画



彦根城天守からの眺め: 周囲を樹木で囲った景観に調和した競技場



2層構成としたメインスタンド客席

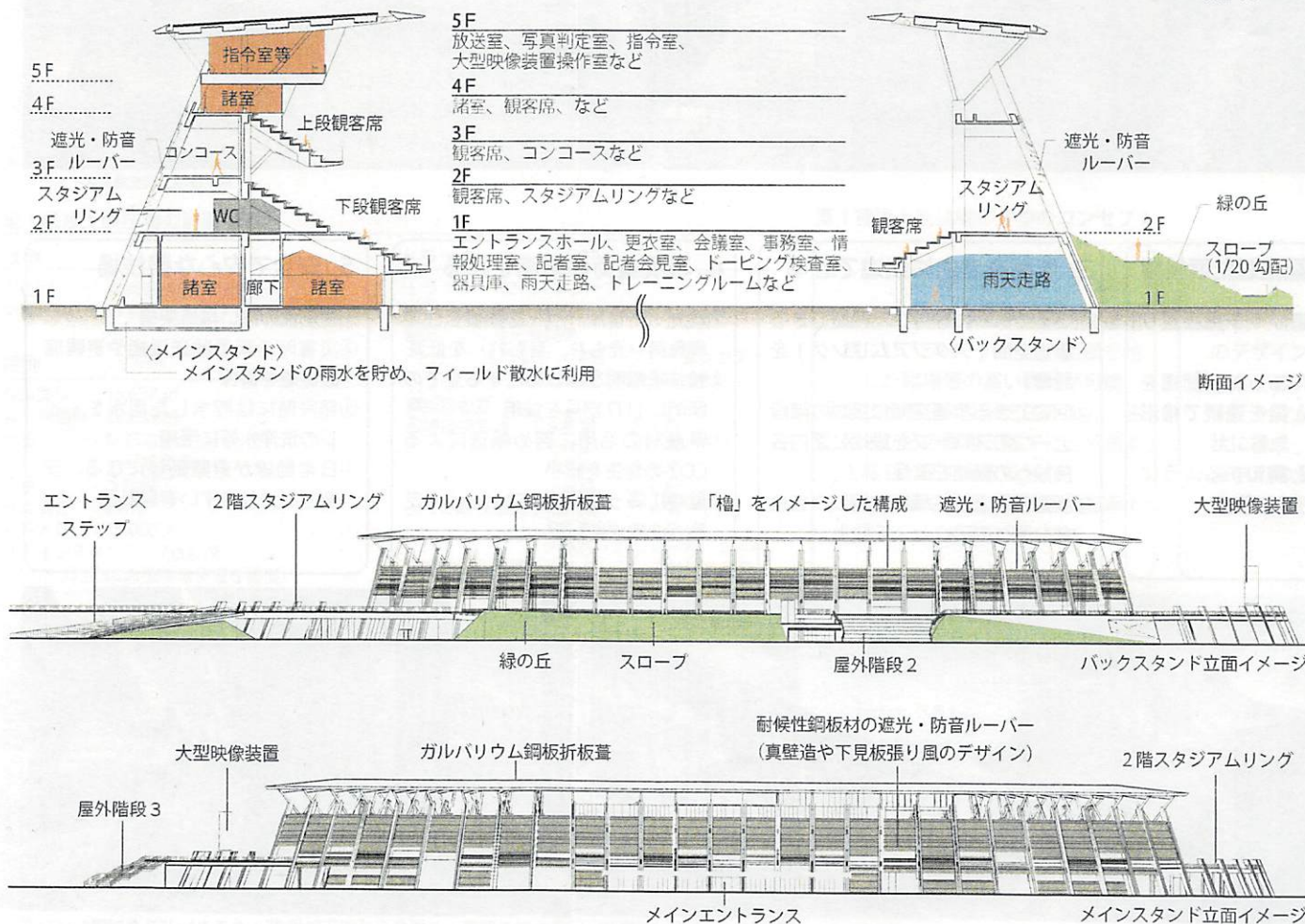
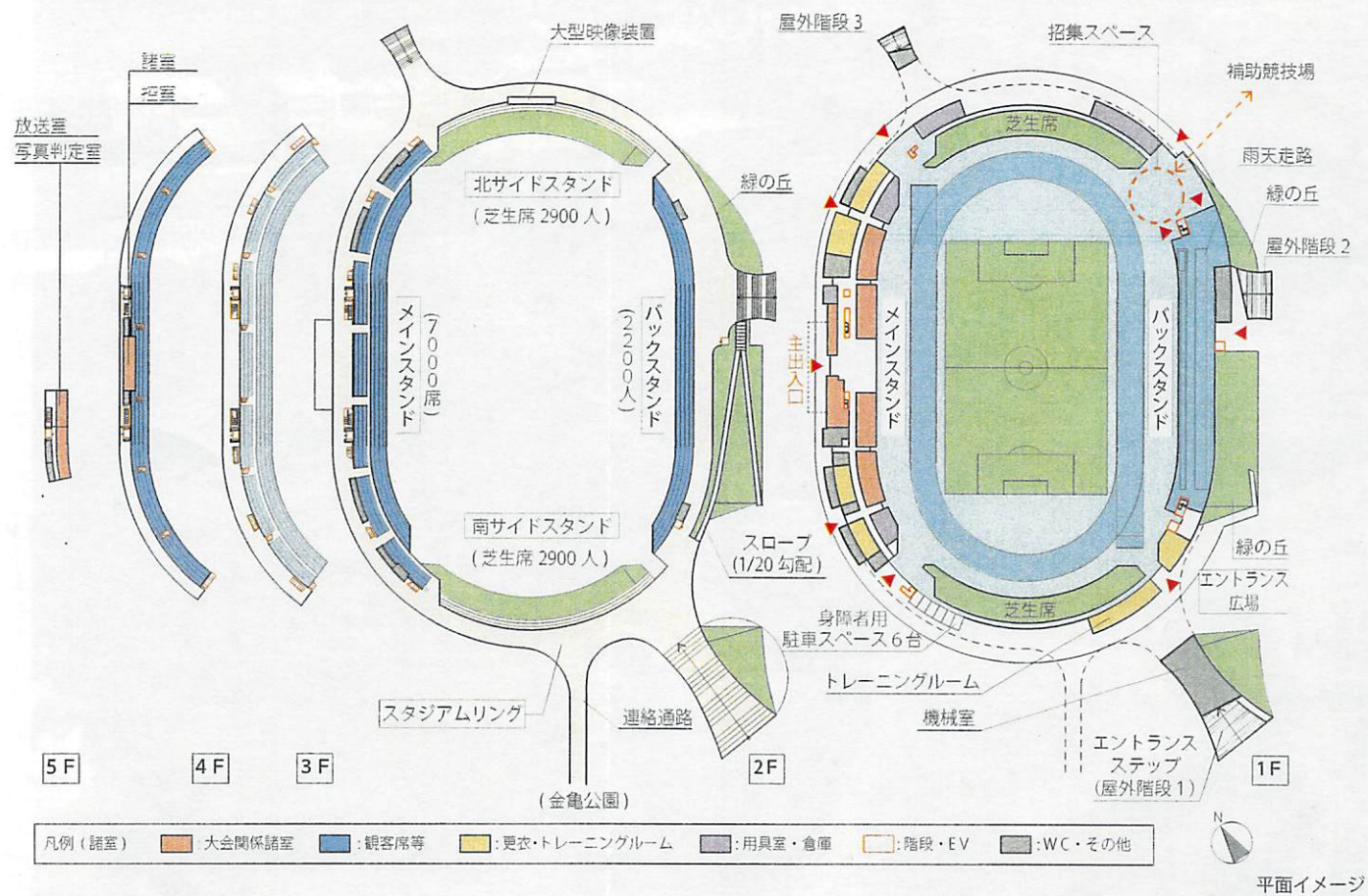


公園と第1種陸上競技場をつなぐ「緑の丘」と「大階段」



バックスタンドスタジアムリング

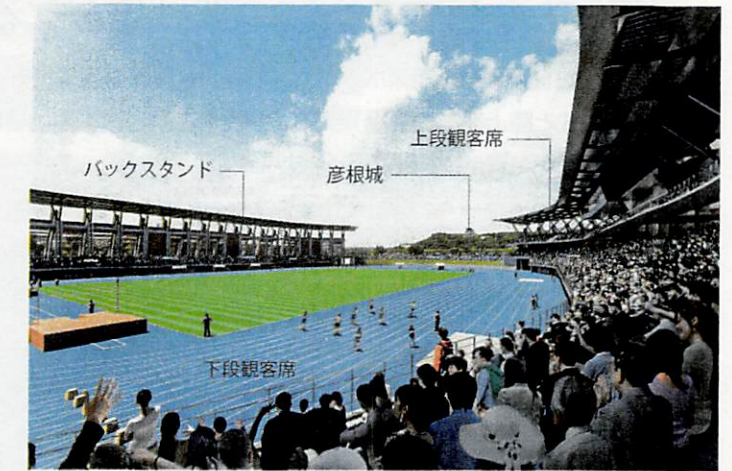
各階平面・断面・立面イメージ



■ 平面計画

3つの視点を重視した計画 (競技者、観客、管理運営)

- ・メインスタンドの1階に競技関係や管理部門の諸室を機能的に配置
- ・会議室はフィールドに面して配置し、可動間仕切り壁を用い多様な用途に対応可能
- ・2階の観客席の周囲を回廊で繋ぎ、各スタンドへのアクセスが容易
- ・メインスタンドは2層式とし、観客席をできるだけフィールドに近接させ臨場感を向上
- ・バリアフリーに配慮した危険な段差がなく誰もが使いやすい競技場 (フィールドと諸室は同レベル)



メインスタンドよりフィールドを見る
客席の2段化により全ての座席がフィールドに近い環境を実現

■ 立面計画

1. 近隣環境に配慮した計画

- ・競技場は内側に傾斜した形状とし、近隣に与える圧迫感を低減
- ・周辺景観に馴染ませるため、最高の高さを抑制 (24m以下)

2. 「和」の景観に配慮した計画

- ・組柱を規則的に連続させ槽形状で構成した外観
- ・遮光・遮音ルーバーを下見板張り風に設置し周辺景観と調和



西側住宅地からメインスタンドを眺める
建物のコンパクト化により周辺の緑地面積の確保

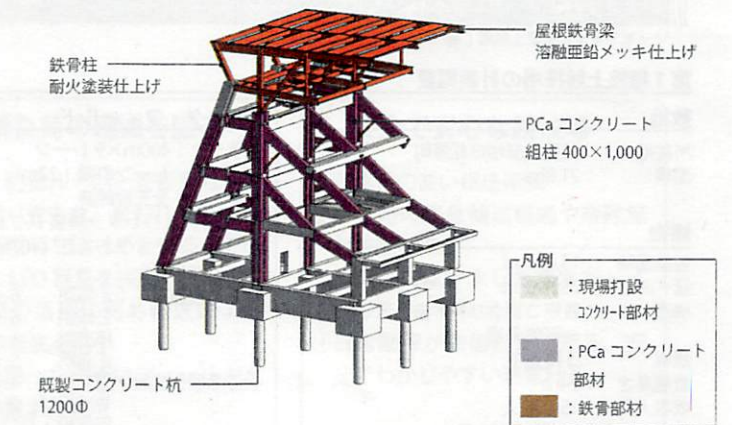
■ 構造・設備計画

1. 安全で合理的な和の構成 (断面・構造計画)

- ・主要な柱は 400×1000mm を対とした組柱とし、構造体のボリュームを軽減
- ・観客席の振動を低減するため下層部は PCa 部材を用いた RC 造とし、上層部は鉄骨造を採用し建物を軽量化

2. 環境に配慮した競技場ならではの設備設計

- ・競技用の照明を屋根裏部に設置し、周囲への光漏れを低減
- ・観客席やフィールド用のスピーカーを分散配置し、周囲への音漏れを低減
- ・屋根に降った雨を地下に貯水し、フィールド芝の散水に利用



メインスタンド架構イメージ

